

歴史的分野研究発表・実践報告

主題 「ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学習」

副題 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

研究仮説 単元や内容のまとまりで授業を構成し、「問い」と「資料」で迫れば、「深い学び」を実現する授業につながると考えられる。

[工夫]

- (1) 単元や内容のまとまりで授業を構成し、問いと答えの距離を遠くする。
- (2) 問いは「どのような」を乗り越え、「なぜ」「なに」を中心にする。
- (3) 生徒が問い続けられるように、問いと資料で生徒に迫り、先生は答えを言わない。
- (4) とともに学びあう場面を設定する。

神戸市立西代中学校 教諭 佐々木 規敦

1. はじめに（分野と研究主題のつながり）

神戸市立中学校教育実践研修社会科グループでは、『主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり』をテーマに、この数年間社会科の授業づくりについて研究を重ねてきた。その中で、龍谷大学中本教授の助言を受け、毎年の研究授業を通して「深い学びとは何か」ということを実践的な形で学ぶとともに、指導案検討をグループで積み重ねることで授業づくりの考え方や方法について理解を深めることができた。さらに、その内容や方法を社会科グループだけでなく神戸市全体に浸透させるべく活動を行ってきた。

授業を構成する上で、研究仮説に基づき、上記の4つの工夫に基づいて授業実践を行った。

(1) 単元や内容のまとまりで授業を構成する。

歴史的分野では、「単元を貫く問い」を設定し、それに基づいて単元全体を構成していく実践を積み重ねてきた。「単元を貫く問い」は、生徒の興味・関心を引くものというだけでなく、その時代の特色や背景を捉えられるものである必要があり、研究授業の検討会でもこの問いを決定するのに多くの時間を費やした。神戸市では、平成28年度の近畿大会で実践発表したときから、「単元を貫く問い」を設定して生徒に捉えさせたい知識と課題・方法を結びつけることを行ってきた経緯があり、より進んだレベルで議論を行うことができた。この「単元を貫く問い」の捉え方がいかに変化・発展していったのかは、後述の研究授業の指導案の内容や解説からも確認することができる。

(2)(3) 問いは「なぜ」「なに」を中心にして、問いと資料で生徒に迫る。

「単元を貫く問い」を設定すると、単元を構成する授業のメインクwestionsを「なぜ」「なに」を中心に決めていった。「どのような」の問いでは、説明するために多くの情報を盛り込んだだけの答えになり、結果的に事実を記述的にまとめるだけの活動に落ち着いてしまうからである。「なぜ」の問いをつくることで、生徒が仮説を立てて検証しながら授業が展開されていくことになり、細かい「なぜ」「なに」の質問を積み上げていくことで、メインクwestionsにたどり着くような授業を構成していくことを目指した。そのために仮説を立てるための資料や複文型の問い（「～なのに、なぜ・・・なのか」）をいかに授業に組み入れていくかに試行錯誤を繰り返しながら議論を進めていった。

(4) ともに学びあう場面がある

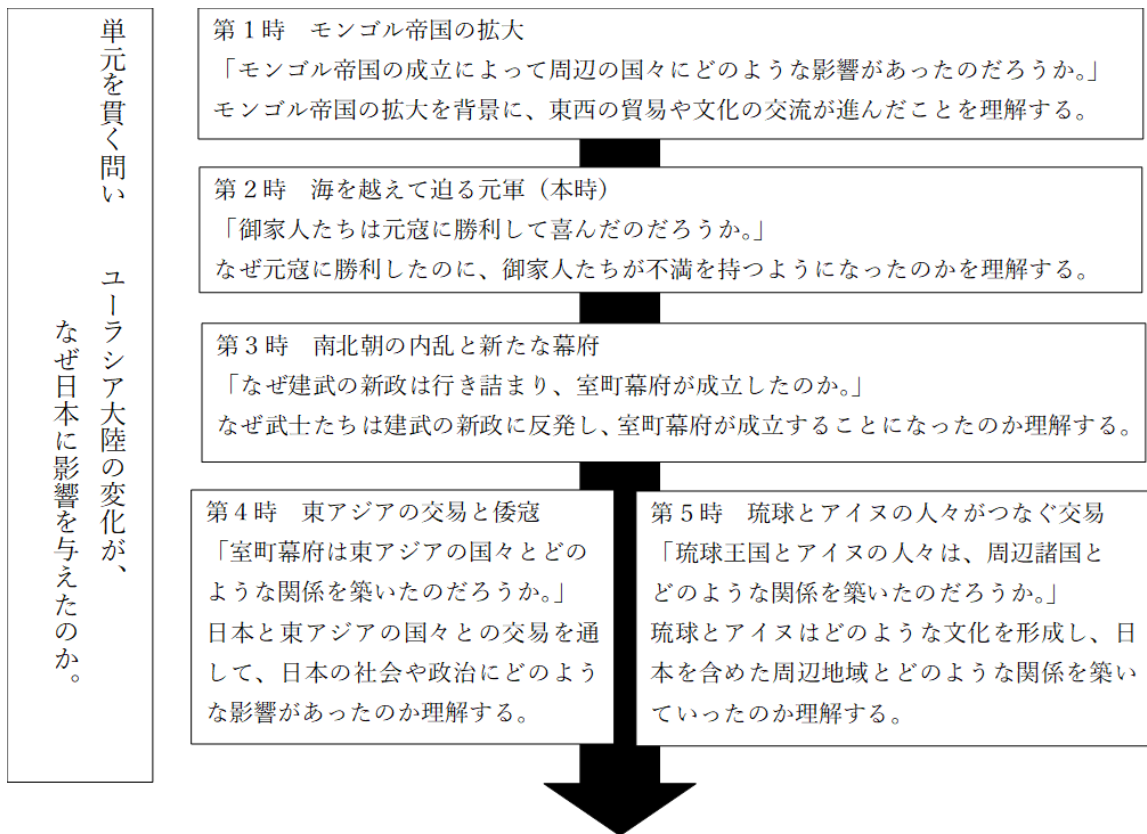
授業実践の中では、質問内容に応じてペアで考えさせたり、グループで意見を交流させたりしながら進めていった。その際に何より意識したのが、グループ活動をすることを目的にするのではなく、いかに生徒が主体的に話し合いに参加したくなるような問いを設定するかである。学びあいの場をつくるために、「問い」と「答え」の距離感を生徒の実態に合わせて設定し、問いを発見させるための資料や仮説を立てるための資料を用意し、生徒の主体的な活動を引き出す授業展開を実践した。そこからさらに、生徒が新たな見通し（仮説）を立て、再度調べようとする展開を目指して授業づくりを目指していった。

2. 研究の方向（分野のこれまでの実践）

(1) 令和4年1月26日 長峰中学校1年生

「御家人たちは、元寇に勝利して喜んだのだろうか」

令和4年度は、「ユーラシア大陸の変化が、なぜ日本に影響を与えたのか」を「単元を貫く問い」として、「海を越えて迫る元軍」の授業を「御家人たちは、元寇に勝利して喜んだのだろうか」をメインクwestionsにして実践した。この授業では、元寇の戦いの内容は小学校段階で学習していることを踏まえて、元寇後「元軍に勝ったのに、なぜ御家人は不満を持ったのか」という発問を中心に、御家人の不満がたまった理由をより多くの生徒が理解しやすいように資料などを工夫して授業を行った。ただし、コロナ禍の影響もあって、単元全体を見通した授業構成まで検討する時間がなかなか取れなかったことが反省点として挙げられる。そのため、完成した指導案も「なぜ」「なに」ではなく、「どのような」の問いも含まれており、単元構成にも検討の時間を費やすことを次年度の課題とした。



(2) 令和5年9月27日 伊川谷中学校2年生

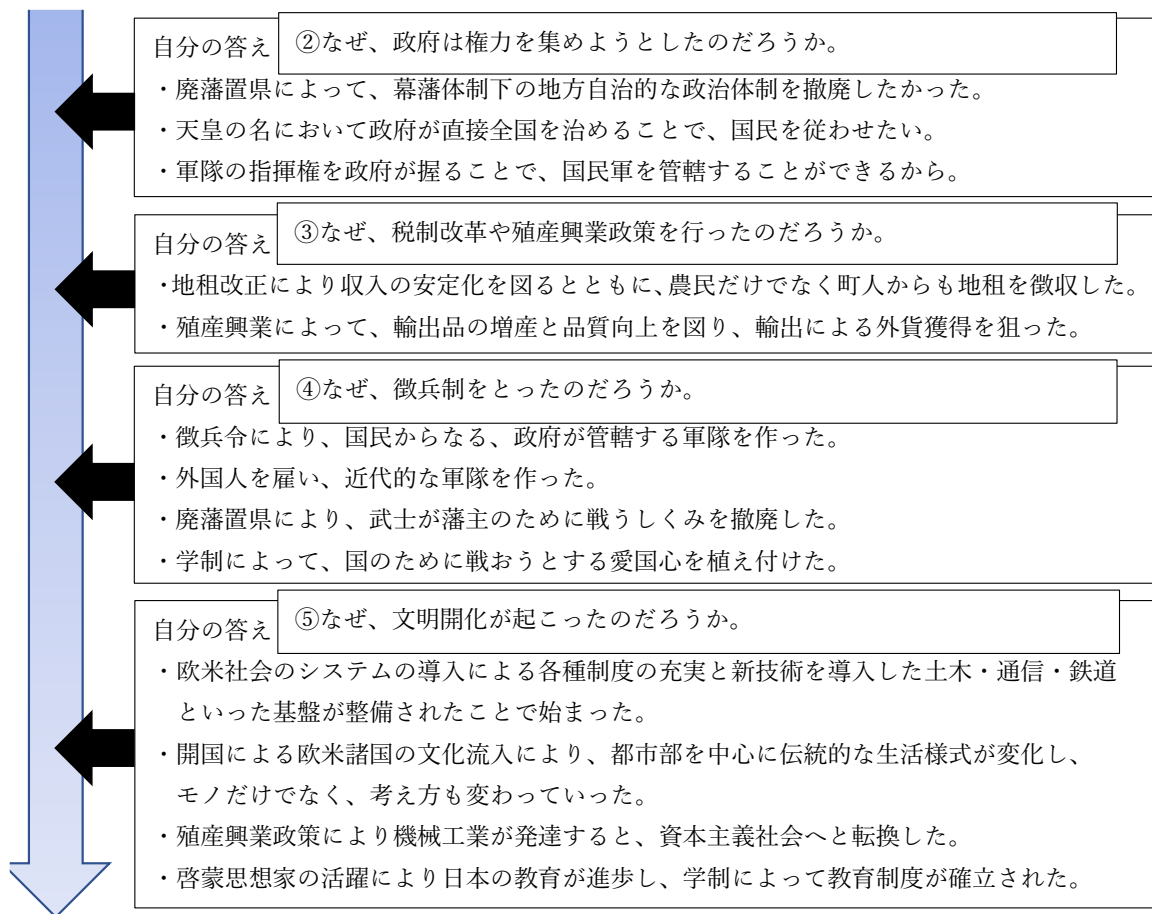
「なぜ、薩長は倒幕に動き出したのだろうか。」

令和5年度は、「明治維新とは何か」を「単元を貫く問い」に設定した。そして、単元を貫く問いに対する教師側の答えを「日本を一つにまとめるために、『日本国民』を作ったこと」として、それを踏まえて1つ1つの授業を構築していくことができた。指導案を見ても、単元を貫く問いと各授業の関係性が明確になり、単元のまとまりとして授業を構成する点で前年度よりも発展させることができたことがわかる。研究授業は「なぜ、薩長は倒幕に動き出したのだろうか。」の授業をメインクエスチョンにして実践した。この研究授業では、単元構成の検討に時間を費やすことができたが、本時の授業の「問い」や「資料」の内容の検討に時間を取り切れなかったことが反省点として挙げられた。

MA 「明治維新」とは、何なのか？

自分の答え ①なぜ、薩長は倒幕に動き出したのだろうか。 **本時**

- ・薩英戦争・4か国艦隊報復により、欧米の軍事力を体感し、攘夷は不可能だと悟ったから。
- ・国内外の諸問題に対応できない幕府の権威が低下し、幕府に任せられないと感じたから。
- ・徳川家を排除し、天皇の下で新政府が国を治めて、強い国を作ろうとしたから。



MA「例：日本を一つにまとめるために、「日本国民」を作ったこと」

19世紀、国内の混乱や諸外国にうまく対応することができない幕府の威信は失われつつあった。そんな中起きた桜田門外の変による大老の暗殺によって、ついに幕府の権威は地に落ちてしまう。今後誰が日本をけん引していくか。そんな中期待が高まったのが「天皇」の存在である。外国との戦いに敗れた薩摩藩や長州藩は攘夷が不可能なことを実感し、旧来の幕藩体制では諸外国と対等に渡り合うことができないと考えた。諸外国と対等に渡り合う為には、旧体制のような藩主のために戦う「藩士」ではなく、日本国のために戦う「日本国民」を作り上げることが必要だと考え、様々な改革を行っていった。明治政府は政府が直接全国を支配する仕組みを作るとともに、徴兵制による国民軍を創設し、強い軍隊を持った、中央集権国家を築いた。また、外国人を雇い進んだ制度や技術を取り入れて、産業を発展させると同時に欧米社会のシステムを導入し近代国家の建設を進めた。そうして外国に負けない強い国を作ろうとした。

3. 研究内容（今年度の実践より）

令和4年度・5年度の取り組みを経て、令和6年7月11日に研究授業を行った。

単元を貫く問いを「江戸時代になぜ町人の文化が栄えたのだろう。」として単元を構成し、江戸時代中期の都市における町人文化の発展に焦点を当てながら、貨幣経済が普及していったこともサブテーマとして押さえておくことで、その後の江戸幕府の滅亡の単元へと繋げられるようにした。また、本時の授業は「なぜ、江戸時代に特産物が流通したのだろう。」をメインクエスチョンとして行った。「なぜ」「なに」を中心とした発問を積み重ねていくことで、1つ1つの事象の繋がりを丁寧に確認しながらメインクエスチョンへと向かっていく授業展開を意識した。「単元を貫く問い」や「なぜ」「なに」を中心とした発問、資料の活用など、この2年間の積み重ねの1つの成果となるような授業となった。

(1) 単元について

①単元名 「江戸時代になぜ町人の文化が栄えたのだろう。」

この単元は、学習指導要領の大項目(3)近世の日本 アとイに関連する学習に位置づけと考えられる。

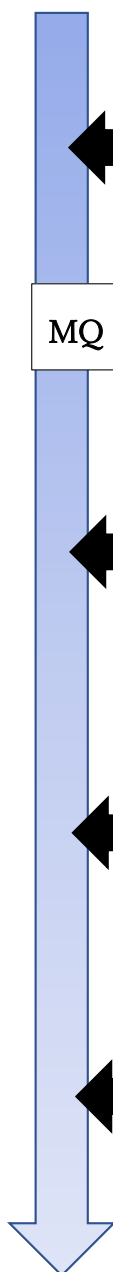
ア (ウ)産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解すること。

イ (ア) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

この事項のねらいは、「町人文化が都市を中心に形成されたこと」を、都市を中心とした経済が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴などを考察する活動などを基に、理解できるようにすること、とある。そのため、単元を貫く問いを「江戸時代になぜ町人の文化が栄えたのだろう」とし、構成する各授業のメインクエスチョンを「なぜ」「なに」の問いにして、1つ1つの事象を積み上げながら、学習指導要領のねらいにたどり着けるように単元指導計画を設定した。

②単元指導計画



自分の答え ①江戸時代にはどのような文化が栄えたのだろう。

- ・歌舞伎や人形浄瑠璃、浮世絵など、都市を中心とした庶民（町人）が楽しむための文化が栄えた。
- ・芸能（歌舞伎、落語、人形浄瑠璃）や絵画などが形成され、流行するためにはお金が必要になっていた。

MQ 江戸時代になぜ町人の文化が栄えたのだろう。

自分の答え ②なぜ、町人が大きな利益（たくさんのお金）を上げることができたのだろう。

- ・特産物の生産や販売の拡大により、現金収入が増えたから。
- ・陸上や海上の交通路が整備されたことで、都市に人や物資が集まるようになり、商業が盛んになったから。
- ・貨幣の普及に伴い両替商なども現れ、都市を中心に金融業で利益をあげる人々も増えたから。

自分の答え ③なぜ、江戸時代には特産物をはじめ、さまざまな物が流通したのだろう。

- ・幕府や大名が干潟や沼地を干拓するなど新田開発に力を注ぎ、農民たちが農具を進化させ、肥料を改良して農業技術を発達させ、米の収穫量が増えたから米の流通量が増えた。
- ・農業技術の発達により生まれた時間的な余裕により、商品作物の栽培が盛んになり、特産物の生産が盛んになったから。

自分の答え ④元禄文化と化政文化の違いは何だろう。

- ・元禄文化は、経済力を持った上方の豪商が中心となった文化である。
- ・化政文化は貨幣が庶民にも普及していったことで、豪商だけでなく庶民も担い手になった文化である。

本時

MA「貨幣の普及によって、町人が経済の中心となっていったから。」

江戸幕府の支配の下で戦乱のない時代となり、幕府や大名は、人口増加などに対応するために米の生産量の増加に努めて新田開発などを進めた。その中で、農民たちも農具を発達させて農業技術を進歩させることで収穫量を増やすだけでなく、時間的な余裕が生まれたことから商品作物の栽培も行うようになった。こうして、各地で特産物が生産され始め、海上・陸上交通の発達も関連して都市には米だけでなく各地の特産物が集まり、商業が飛躍的に栄えた。貨幣も普及していき、その中心となったのは商売や両替商などで大きな利益を上げた都市の町人であった。その結果、まず上方の豪商が担い手となった文化が栄え、庶民にも貨幣経済が徐々に浸透していくことで、化政期の江戸では町人だけでなく庶民も文化の担い手となっていった。

③単元の評価計画

○：評定に生かす評価 ●：指導に生かす評価

時間	学習課題	評価基準と評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	江戸時代になぜ町人文化が栄えたのだろうか。	● (ワークシート)	○ (学習ポートフォリオ)	○ (学習ポートフォリオ)
2	なぜ町人が大きな利益を上げることができたのだろうか。	● (ワークシート)	○ (学習ポートフォリオ)	○ (学習ポートフォリオ)
3	なぜ、江戸時代には特産物が多く流通したのだろうか。	● (ワークシート)	○ (学習ポートフォリオ)	○ (学習ポートフォリオ)
4	元禄文化と化政文化の違いは何だろう。	● (ワークシート)	○ (学習ポートフォリオ)	○ (学習ポートフォリオ)
		○期末考査	○期末考査	○レポート

④評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商品作物と貨幣経済の広まりを基に、産業や交通が発達し、町人文化が都市を中心に形成されたことを理解している。	諸産業が発達し貨幣経済が広まっていった理由や、町人文化が広がった理由を、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的考察し、表現している。	江戸時代の交通・金融・小売業などの発達にともなう、変化や課題を主体的に追究・解決しようとしている。

⑤研究授業の展開【全 4時間中 3時間目】

目標 なぜ全国で特産物の生産が盛んになったのか、農村や百姓の生活の変化と
関連付けて理解する。

	学習活動および内容	指導上の留意点	評価
導入 5分	<p>前時の振り返りを行う。 「なぜ町人はお金をたくさん持つことができたのだろう。」 (例) 大名や町人にたくさんの物を売ることができた。 全国から特産物を集めて売ることができた。</p> <p>学習課題「なぜ全国で特産物が流通したのだろう。」</p>		
展開 10分	<p>発問1「そもそも、特産物は何からできているだろう。」</p> <p>クイズ形式で特産物の原料を考える。 農村で特産物の原料である商品作物が栽培され始めたことを確認する。</p> <p>「なぜ商品作物をたくさん栽培するようになったのだろう。」 「百姓が作らないといけなかったものは何だっただろう。」</p>	班隊形で活動する。	
20分	<p>発問2「百姓は、米を作らなければならないのに、なぜ商品作物をつくることができたのだろう。」</p>		
10分	<p>農業技術の発達を表した資料をもとに班で話し合う。 (例) 農作業が楽にできるようになり体力に余裕ができた。 年貢が楽に納められるようになり時間にゆとりができた。 朝から晩まで米作りに専念する必要がなくなった。</p>	農業技術の発達の資料を提示する。	
	<p>発問3「商品作物をつくると、百姓の生活にどのような変化があるだろう。」</p> <p>(例) お金が手に入るようになる。 農村にも貨幣経済が浸透してきたことを確認する。 米の生産量が増えたため余剰米を売ってお金を得た人々もいたことも補足する。</p>	発問2で出した意見をもとに発問3に繋げる。	
まとめ 5分	<p>「学習課題：なぜ全国で特産物が流通したのだろう。」を記入する。</p> <p>・農業技術の発達により米の生産性が向上し、余剰米の販売や、時間的な余裕が生まれたことによる商品作物の栽培により、庶民の間にも貨幣が普及していった。 ・盛んに栽培され始めた商品作物を買い取った職人が、各地で特産物を生産し始め、都市の商人を中心に売買された。</p>		学習課題に対して授業内容を踏まえて説明できている。 【知】

⑥評価基準

知識・技能	<p>A・農業技術の発達により米の生産性が向上し、時間的な余裕が生じたことによる商品作物の栽培により、庶民の間にも貨幣が普及していった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品作物を買い取った職人が、各地で特産物を生産し始め、都市の商人を中心に売買された。 <p>B・農民は商品作物の栽培を始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品作物を買い取った職人が、各地で特産物を生産し始め、都市の商人を中心に売買された。
CからBにする手立て	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記入欄の添削を行い、問いに対して何が欠けているのか明確にする。

生徒の解答例

【まとめ】 なぜ全国で特産物が生産・流通し始めたのだろう

農業技術が進歩したことにより、効率がよくなり、時間に余裕ができた。そのためお金がよく手に入る商品作物を栽培する人が多くなった。そして商品作物を使って特産物をつくる人が増えたから流通し始めた。

【まとめ】 なぜ全国で特産物が生産・流通し始めたのだろう

全国で特産物が生産・流通し始めたのは、百姓が特産物の原料となる商品作物を栽培し始めたからだ。昔は百姓は米を作らなければならなかったが、農業技術の進歩により、今までよりも米作りにかかる時間や体力が減り、余裕ができたため、商品作物を作り始めた。だから、そこから特産物をつくり、町人がそれを買い取ったため、生産・流通が始まった。

【まとめ】 なぜ全国で特産物が生産・流通し始めたのだろう

農業技術の進歩によって農作業の効率が良くなり、百姓達に余裕ができたことで、商品作物を栽培した。その土地に合う作物を、特産物として生産した。売るとお金が入るので、百姓達はそれらを売って、生産と流通が始まった。

⑦「単元を貫く問い」に対する生徒の解答例

江戸時代中期の幕府による新田開発や農村における農業技術の発達がきっかけとなり、米栽培の効率性・生産性の向上だけでなく商品作物の栽培、特産物の生産が進んだこと、さらに交通網が整備されることで都市に各地から特産物が運び込まれて都市が発展していったこと（商業・金融業など）、結果として、都市の商人が文化の担い手となっていき（元禄文化）、貨幣経済の普及にともなって後に庶民も娯楽を楽しむことができるようになったこと（化政文化）を、単元を通して1つ1つ丁寧に積み上げることができた。

以下に、「単元を貫く問い」に対する、生徒の単元の学習がすべて終了した後の答えの例をいくつか掲載する。

自分の意見

農業技術が発達し、千歯こまや備中ぐわができたことにより、効率よく農業ができるようになった。そして千鰯などの栄養価の高い肥料を使ったことにより、米の生産が増えた。このことにより、前より格段に楽に農業ができるようになったので、あいた時間に商品作物をつくりはじめた。その商品作物をつくらせて、特産物が全国各地に生産・流通されはじめた。その多くの特産物などは一度大阪の蔵屋敷に集められて、米や特産物の取引が行われ、町人が経済的なゆとりを持ちはじめた。そして経済力や技術力を持つ上方の町人が娯楽を求め、相撲や浮世絵、歌舞伎などを楽しむようになった。町人の文化ができた。しかし、この文化は上方ではお金を持った町人にしか広まらなかったが、文化の中心が上方から江戸に移り、庶民にもお金が流通しはじめたから、お金を持った町人だけでなく、庶民でも楽しめる文化が江戸で楽しくできて広まっていった。

自分の意見

農具の発達や千鰯などの良い肥料の開発などにより、米が効率よくとれるようになったため、百姓は負担が減り、時間にも余裕ができた。たから、お金をかせげるというのもあり、商品作物を栽培するようになった。そして、その栽培された商品作物を原料として各地でたくさん特産物が生産され始め、それを町人が買ったりして、大名や大名の家族、他の町人などに売ったりして、町人はお金をもつようになった。呉服屋では絹織物や綿織物を、植札をつけて売ったりして、お金をもつようになった。そのためお金の余裕ができた町人などが、自分達が娯楽を楽しむために、人形浄瑠璃や浮世絵、かぶきなどの文化をつくれた。これらのことを背景に、町人の文化は栄えた。そして、その後の文化の中心が江戸に移った。化政文化では、元禄文化と違って、庶民も商品作物の栽培などでたまったお金の余裕で、娯楽を楽しむようになった。

自分の意見

江戸時代に町人の文化が栄えたのは、町人がお金を持ち始め裕福になったからだ。文化が栄える前、農業技術が発達したり、肥料が新しく開発されたりした。その影響によって、今までの米作りだけでなく、いろいろな作物が、効率が高くなったおかげで、体力や時間によろしくできはじめた。すると百姓は余った体力や時間を使い、商品作物を栽培するようになった。作られた商品作物は各地で特産物を作るのに使われた。そして、江戸にいる商人は、全国から特産物を取りよせて、その特産物を売りはじめた。江戸では参勤交代で来る大名やその家臣、町人などが栄えたため、特産物はよく売れて、商人はたくさんのお金を得ることができた。そして、お金を持った町人が文化を作り始め、その文化を楽しんだため、上方では元禄文化、江戸では化政文化が栄えた。化政文化では商品作物を栽培しはじめたおかげで、庶民も文化を楽しんだ。このような流れがあったため、町人や庶民はお金を持ち始め、江戸時代に町人の文化が栄えた。

自分の意見

町人の文化が栄える前にまず農民たちが農業技術を進歩させたことにより、備中くわが、千両こま、干鰯が開発され、農民は効率よく米を栽培できるようになり、時間や体力に余裕ができた。その空いた時間を使い、農民は商品作物を栽培し始めた。そして全国各地で商品作物を使い、特産物が作られ、大阪の蔵屋敷に、全国から集められた大量の米や、特産物が運ばれ、その後江戸にも特産物が集まり、町人が江戸で大名などに着物を、和服を着たことにより、金持りの町人が現れた。そして経済力を持った町人が特産物の集まる上方を中心に元禄文化が栄えた。さらにその後、庶民も商品作物を売り、金を持ち江戸の庶民による化政文化も栄えた。

自分の意見

江戸時代に町人の文化が栄えた理由として、まず江戸時代になり、農業技術が発達し備中くわが生まれた。これにより、これまでよりも効率よく、多量に作物がとれるようになった。これにより、百姓に体力、時間とも余裕ができた。そのため商品作物を作り出し、できた商品作物を使い、特産物が全国的に生産された。それを商人達が全国から取り寄せ、売り出した。大名達が自分の威厳を見せつけるため、西陣織などの高級な物を買っていたこともあり、町人達は多くの利益がでて、余裕が生まれた。お金の余裕ができたことにより、町人達は娯楽を求め、歌舞伎などを楽しんでいた。これが広まったため、町人の文化が作られていった。そして関西では上方を中心とする元禄文化が生まれ、浮世草子・俳諧などができ、日本独自の文化が更に発展していった。その後、遅れて江戸でも化政が花を開き、浮世絵が大流行した。だが化政文化は元禄文化と違って

商品作物を売って手に入る利益があるため、庶民も余裕ができて町人だけではなく、庶民も娯楽を楽しむようになり、町人が作った文化は更に発展していった。

歴史的分野・公開授業学習指導案

日 時 令和6年11月22日（金）

学 級 神戸市立神出中学校 2年1組

指導者 神戸市立神出中学校 鳥海 翔吾

1. 単元名 第4章 近代国家の歩みと国際社会 第1節 欧米諸国における「近代化」

2. 単元について

【学習指導要領より】

(1) 近代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に着けることができるよう指導する。

ア (ア) 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解すること。

イ (ア) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(カ)までについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

【内容の取扱いについて】

ア (1)のアの(ア)の「市民革命」については、政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連付けて、アメリカの独立、フランス革命などを扱うこと。「アジア諸国の動き」については、欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点から、代表的な事例を取り上げるようにすること。

3. 研究主題との関連

本大会の研究主題である「ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学習」を実現するための「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」を目指して単元指導計画を作

成した。

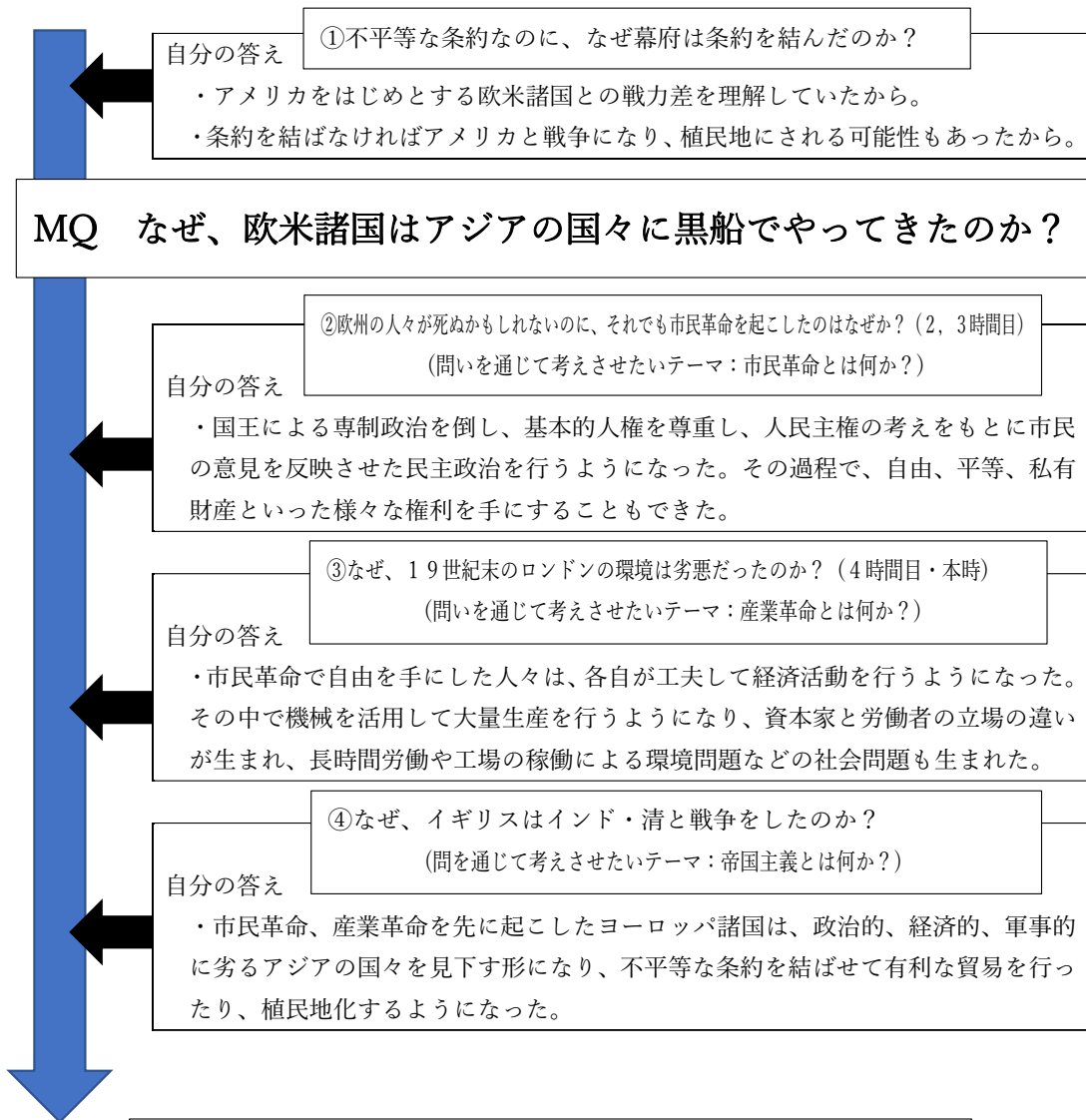
具体的には、「ヨーロッパの近代化」という内容のまとまりで単元を構成し、日本の歴史を中心に学習を進めている生徒の興味・関心を惹きつけるためにペリーの来航を導入部分に位置付けて時代をさかのぼるという指導計画を立案した。黒船の来航の理由を探るためには、ヨーロッパの近代化までさかのぼらなければならず、問いと答えの距離を遠く設定した。また、各授業の問いは「なぜ」を中心とした。生徒が「なぜ」の問いを自ら考え、他の生徒との意見交換を含め、深めていくことように仕向けることが狙いである。そのことを通じて、生徒が市民革命とは何か、産業革命とは何か、帝国主義とは何かという問いについても深めていくことにつながるのではないだろうか。これらの問いに迫っていくことで、生徒は単元を貫く問いである「なぜ、欧米諸国はアジアの国々に黒船でやってきたのか」という問いに近づいていくことになる。また、単元を貫く問いについても、「なぜ」の問いについて深めていくことで、「近代化とは何か」という問いについても深めていくことになる。結果として、ヨーロッパ諸国が近代化を遂げ、世界各国を序列化して序列の低いアジア・アフリカ諸国を植民地化していったという歴史的な事実にも迫ることにつながると考える。

このように、本単元を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を行い、共に学びあい、未来を創る力をはぐくむ社会科学習に近づくことができるよう、単元を構造化し、問いを中心とした授業づくりに取り組んできた。

4. 単元指導計画

本単元は、市民革命、産業革命がヨーロッパの社会構造を変化させ、アジア諸国への進出、日本への黒船来航へとつながる内容となっている。つまり、「近代化」へのきっかけとなる時代の転換点について学習する単元である。この時代の人々が基本的人権、人民主権という考えを生み出し、血を流してまで実現したこと。獲得した自由の下で産業革命を起こして経済的な発展を遂げたこと。更なる発展を求めて海外へ進出すると同時に、ヨーロッパを除く地域の国々の格付けを行っていたこと。これらのことを問いと資料を用いて生徒に考察させることでより深い理解に導いていきたい。

また、公民的分野、特に基本的人権について扱う単元への接続という意味合いも持つ内容である。



5. 単元の評価計画と評価基準

○：評定に生かす評価 ●：指導に生かす評価

時間	学習課題	評価基準と評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	不平等な条約なのに、なぜ幕府は条約を結んだのか？	● (ワークシート)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)
2 3	欧州の人々が死ぬかもしれないのにそれでも革命を起こしたのはなぜか？	● (ワークシート)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)
4 (本時)	なぜ、19世紀末のロンドンの環境は劣悪だったのか？	● (ワークシート)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)
5	なぜ、イギリスはインド・清と戦争をしたのか？	● (ワークシート)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)	● (Excelシート) ○ (学習ポートフォリオ)
		○単元テスト ○期末考査	○単元テスト ○期末考査	

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・市民革命、産業革命を経て、ヨーロッパが近代化を遂げたことを理解している。 ・イギリスを例に、近代化を遂げた欧米がアジアへ進出したことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治や社会の変化と工業化の進展等、学習した社会的事象を相互に関連付けるなどして、近代化に向けた社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「近代化」が進む中で、そこで見られる変化や課題について主体的に追究・解決しようとしている。

7. 本時の展開 【全 5 時間中 4 時間目】

目標 産業革命がもたらした影響について、大量生産が可能になったことや、労働問題や社会問題が発生したこと等を踏まえて、多面的・多角的に考察し、表現する。

	学習活動および内容	指導上の留意点	評価 ○評定に生かす評価 ●指導に生かす評価
導入 5分	振り返り 「なぜ、死ぬかもしれないのに革命に挑んだのか？」 (例) 自由・平等は、それだけの価値があった。		●前時の問いに答えることができている。 【主】
	学習課題 「なぜ、19世紀末のロンドンの環境は劣悪だったのだろうか？」		

<p>展開 5分</p> <p>20分</p> <p>10分</p>	<p>発問1「資料を見て、ロンドンが抱える問題を挙げてみよう」</p> <p>発問2「なぜ、発問1のような状況が起こったのだろうか？」 (例) 環境問題 →工場が乱立して汚水、煙が大量に出た 労働問題 →工場主が労働者をたくさん働かせた 犯罪増加 →生活できず、仕方なく…</p> <p>発問2「なぜ、発問2のような状況が起こったのか、さらに深く考えてみましょう。」 (例) 重工業や綿織物の大量生産を行うようになり、労働者が都市に集まるようになったから。工業が盛んになって、労働者と資本家という立場の違いが生まれたから。</p> <p>発問3「産業革命とは何か？」 (例) 工業の機械化などによって、生活スタイルまで含めて起きた変化のこと</p>	<p>班活動。 班で話をするなどして、1つの答えを出す。</p> <p>机間巡視（机間指導）。各班の進捗状況を見て、時代をさかのぼって原因を考察するよう助言する。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>学習課題について答える。 「なぜ、19世紀末のロンドンの環境は劣悪だったのだろうか？」 市民革命で自由を手にした人々は、各自が工夫して経済活動を行うようになった。その中で機械を活用して大量生産を行うようになり、資本家と労働者の立場の違いが生まれ、長時間労働や工場の長期稼働などの社会問題も生まれたから。</p>	<p>学習ポートフォリオに記入させる。</p>	<p>○学習課題について説明できている。【思】</p>

8. 本時の評価【思考・判断・表現】

A	B	C
<p>産業革命の影響について、大量生産が可能になったことや労働問題・社会問題が発生したことなど、正の側面と負の側面の両面から考察し、表現することができている。</p>	<p>産業革命の影響について、大量生産が可能になったことや労働問題・社会問題が発生したことなど、正の側面と負の側面のどちらかを取り上げ、表現することができている。</p>	<p>産業革命の影響について、大気汚染等の現象面にのみ着目しており、社会の変化等について表現できていない。</p>
<p>CからBにする手立て 主に発問2について、机間巡視（机間指導）の際、時代・原因をさかのぼって考察を進めていくように助言する。</p>		